

事後評価報告書

1. 基本情報

実行団体名	特定非営利活動法人旭川 NPO サポートセンター
実行団体事業名	空き家整理の担い手に！生活困窮者の自立支援事業
資金分配団体名	一般社団法人北海道総合研究調査会
資金分配団体事業名	北海道未来社会システム創造事業
事業の種類	草の根活動支援事業
実施期間	2020年4月～2023年3月
事業対象地域	旭川市及び周辺地域

2. 事業概要

(1) 事業によって解決を目指す社会課題

日常生活または社会生活を営む上での困難を有する者の支援を、空き家整理等の活動を通して、生活的、社会的、経済的自立へと導く。

【想定した直接的対象グループ】

旭川市就労準備支援事業の支援対象者 139名

(2) 事業の概要

<p>①中長期アウトカム 旭川市内において空き家の整理事業等を通じて支援対象者が居場所と役割を見いだせる地域になる。</p>
<p>②短期アウトカム</p> <ol style="list-style-type: none">1. 旭川市内において放置されている空き家が処分・整理・管理される。2. 旭川市内において支援対象者が社会とのつながりや自立に向けた自信が醸成される。3. 旭川市内において支援対象者が活用される基盤ができる。
<p>③実施した活動</p> <ol style="list-style-type: none">1 空き家の管理・空き家の不用品処分廃棄・清掃・草刈り・除雪・お墓掃除などの作業の実施。2 支援対象者同士、依頼主などと事前打ち合せや作業工程などの共有のため、会話の場に参加してもらうようにした。3 支援対象者のこれまでの経験や得意な事を活かして作業を担ってもらった。例えば塗装歴40年という人に壁の塗装や、元運送会社にいた方には家具など重量物の運び出し作業をしてもらうなどした。3 協力していただけそうな不動産業者や地域包括支援センター、リサイクルショップなどにチラシ等を配布し、協力を依頼。 市役所の建築指導課、保護課、自立サポートセンターなどに協力依頼。3 借地で農作業やココデカフェでの調理や接客などを支援対象者に体験していただいた。
<p>④出口戦略</p> <p>空き家整理等に限らず、支援対象者が活躍できる多様な場を作り出す。具体的には農業における農作業等や、ココデカフェのカフェでの調理や接客などに従事してもらうなど、支援を継続していきたい。</p>

3. 事後評価実施概要

(1) 実施概要

①この事業の重要なポイントとして設定した変化

就職に結びついた人数という定量的な評価はしやすいが、中長期アウトカムで目指している、支援対象者が居場所と役割を見出し、エンパワメントしていく変化にポイントを置いた。

②事後評価のための実施した調査

- ・事業実施者による調査
- ・アンケート、ワークショップを通じた支援対象者のヒアリング
- ・事業実施者、およびワークショップを通じた外部支援関係者からのヒアリング

調査Ⅰ	【関連する短期アウトカム】 空き家等の管理、整理、処分
1) 調査及び分析方法 当サポートセンターに持ち込まれた相談数および、依頼を受けて作業した実施数 相談数 146件、実施数97件	
2) 実施時期 2020年4月～2022年11月まで	
3) 対象者 旭川市及び周辺の市民・事業者	
4) 結果（明らかになったこと） 相談数146件、実施数97件、作業日数231日、延べ作業日数531日 高齢化が進み、親世代の戸建ての処分や、老人施設への転居を希望するシニアが多く、その不用品の処分などを依頼されるケースがある。また一人暮らしや高齢世帯が増え、業者に頼むほどではないが、自分ではできないこまごました仕事の需要があることが事業を通じて確認できた。	

調査Ⅱ	【関連する短期アウトカム】 旭川市において支援対象者が社会とのつながりや自立に向けた自信が醸成される
1) 調査及び分析方法 ワークショップや、ヒアリングを通じて当サポートセンター、および外部評価者による観察の結果を定性的に評価	
2) 実施時期 2022年12月	
3) 対象者 旭川市保険福祉部生活支援課、旭川市自立サポートセンター、生活協同組合北海道高齢協、旭川NPOサポートセンター(株)ユウキなど5団体8名、支援対象者4名	
4) 結果（明らかになったこと） ヒアリングを通して、支援対象者が徐々にポジティブな変化が見られるようになり、経験の長い人が、経験の浅い人に対して、指導をする姿も見られるようになった。また指示待ちが少なくなり、自らやるべきことを判断して取り組めるようになってきた。コミュニケーションの苦手な人が、徐々に他人とコミュニケーションが取れ自分の意見も言えるようになった。	

調査Ⅲ	【関連する短期アウトカム】 旭川市において支援対象者が活用される基盤ができる
1) 調査及び分析方法 事業期間中及び評価会議のWSにおける外部支援事業者からのヒアリング	
2) 実施時期 事業期間・および評価会議実施時	
3) 対象者 旭川市・自立サポートセンター・生活困窮者支援団体・連携廃棄物事業者	
4) 結果（明らかになったこと） 8名が就職に結びついた。（内2名は福祉的就労、2名は常勤、他はパートタイム勤務）。空き家対策事業以外の新事業「CoCoDe カフェ」事業では3名の支援対象者のうち2名はパートで飲食業に就職。1名は当サポートセンターでインターンとして就労。計11名が就労に結びついた。外部評価者で連携廃棄物事業者の支援対象者への評価は高く、活用の期待は大きい。	

③調査結果の考察（調査結果をどのように深掘りし価値判断をしたか）

<p>現段階において短期アウトカムは達成したと思われる。ただ、今後就職に結びついた人たちの定着につながるか今後の動向に注視したい。フォローも必要かもしれない。中長期アウトカムの設定自体は適切であった。</p>
--

(2) 実施体制

内部/ 外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	アンケートの作成・インタビューの実施	森田 裕子	旭川 NPO サポートセンター理事
内部	アンケートの作成・アンケート調査	長嶋 正明	旭川 NPO サポートセンター理事
外部	支援対象者との面談・アンケート調査項目のアドバイス	三輪 敏	生活協同組合北海道高齢協就労支援員
外部	支援対象者との面談・アンケート調査項目のアドバイス	末永 尚之	生活協同組合北海道高齢協就労支援員
外部	支援対象者と共同作業	山辺 恵子	旭川こうけん人理事長
外部	支援対象者と共同作業	石橋 優樹	(株)ユウキ代表取締役

4. 事業の実績

(1) インプット (主要なものを記載)

①人材 *主に活動したメンバーの数 (6)人	氏名	主な役割		
	森田 裕子	事業統括		
	長嶋 正明	事業情報発信担当		
	田古嶋 直樹	事業支援担当者		
	三輪 敏	生活困窮者支援専門員		
	末永 尚之	生活困窮者支援専門員		
	石橋 優樹	連携産廃事業者		
②主な資機材	資機材名	用途		
	刈払い機	草刈り用		
	アルミスロープ	トラックへの荷物運搬用		
③経費実績 (概算)	契約当初	実績	差額	
	事業費の総額	2,845 千円	5,800 千円	2,955 千円
	休眠預金からの助成額	2,210 千円	2,210 千円	千円
	自己資金	634 千円	3,590 千円	2,956 千円
④本事業に投入した自己資金の種類と金額	名称		金額	
	事業収入		3,590 千円	
			千円	
			千円	
	合 計		3,590 千円	
⑤自己資金の資金調達で工夫した点	依頼先での丁寧な作業によりリピーターとなる市民や企業が増え、事業収入が伸びた。			

(2) アウトプットの実績

アウトプット1	空家の処分・整理・管理
1) 指標	処分・整理・管理した空家数
2) 初期値/初期状態	0件
3) 目標値/目標状態	18件
4) 目標達成時期*事業計画書に記載した時期	事業最終年度
5) 実績値	97件

アウトプット2	支援対象者が本事業で提供された仕事を体験する
1) 指標	支援対象者が仕事を体験した結果、満足だったと回答した数
2) 初期値/初期状態	0件
3) 目標値/目標状態	満足度80%以上
4) 目標達成時期*事業計画書に記載した時期	事業最終年度
5) 実績値	89%

アウトプット3	支援対象者及び協力者のコミュニケーションの場の提供
1) 指標	コミュニケーションの場の数
2) 初期値/初期状態	0件
3) 目標値/目標状態	36件
4) 目標達成時期*事業計画書に記載した時期	事業最終年度
5) 実績値	250件

アウトプット4	支援対象者のスキル及びニーズを明らかにする
1) 指標	個人調査票の結果をまとめたデータベースに登録された件数
2) 初期値/初期状態	0件
3) 目標値/目標状態	20件
4) 目標達成時期*事業計画書に記載した時期	事業最終年度
5) 実績値	42件

アウトプット5	協力候補企業への情報発信
1) 指標	チラシ配布数、ミニコミ誌への広告掲載数
2) 初期値/初期状態	0件
3) 目標値/目標状態	チラシ配布数60件、広告掲載数12件
4) 目標達成時期*事業計画書に記載した時期	事業最終年度
5) 実績値	チラシ配布数 60 件、広告掲載数 15 件

アウトプット6	空き家事業にこだわらず、支援対象者が従事できる新たな事業創出に取り組む
1) 指標	新たな事業に参加する人の人数
2) 初期値/初期状態	0件
3) 目標値/目標状態	延100人
4) 目標達成時期*事業計画書に記載した時期	事業最終年度
5) 実績値	延152人(ココデカフェで従事した延人数+農作業に従事した延人数)

(3) 外部との連携の実績

旭川市の協力により生活保護世帯の家財整理の入札業者として参加できた。
旭川市建築指導課の紹介で空家管理の依頼を3件受けた。
地域包括支援センターの紹介で空家整理や生垣伐採の依頼を受けた。
廃棄物事業者(株)ユウキからの依頼で生活困窮者の活動の場が広がった。
NPO法人旭川こうけん人からの依頼が数件あった。

5. アウトカムの分析

(1) アウトカムの達成度

①短期アウトカムの計画と実績

短期アウトカム 1	旭川市において放置されている空き家が処分・整理・管理される。
1) 指標	処分・整理・監理した空き家数/空き家対策を持ち込まれた相談数
2) 初期値/初期状態	0
3) 目標値/目標状態	50%
4) 目標達成時期*事業計画書に記載した時期	事業最終年度
5) アウトカム発現状況 (実績)	相談件数141件、 作業実施数97件、 69%
6) 事前評価時の短期アウトカム	旭川市において放置されている空き家等が適正に管理される。

短期アウトカム 2	旭川市において支援対象者が社会とのつながりや自立に向けた自信が醸成される。
1) 指標	生活自立できる対象者の増加。事業者及び外部評価者による観察の結果を定性的に評価。
2) 初期値/初期状態	0
3) 目標値/目標状態	事業の結果、何らかのポジティブな変化が見られた人の割合 50%。
4) 目標達成時期*事業計画書に記載した時期	事業最終年度
5) アウトカム発現状況 (実績)	11名が就労(2名は福祉的就労・2名は常勤・他7名はパート就労)に結び付いた。他の支援対象者も仕事の際に笑顔でコミュニケーションできるようになったり、指示されなくても、他の人とチームワークで進んで仕事ができるようになった。体力がなく当初30分ほどの作業で動けなくなっていた人が、回数を重ねることで徐々に5~6時間の長時間の作業に従事できるようになった。
6) 事前評価時の短期アウトカム	支援対象者の社会とのつながりや自立に向けた自信が醸成される。

短期アウトカム 3	旭川市において支援対象者が活用される基盤ができる。
1) 指標	支援対象者に理解を示す協力者数
2) 初期値/初期状態	0
3) 目標値/目標状態	5人以上
4) 目標達成時期*事業計画書に記載した時期	事業最終年度
5) アウトカム発現状況(実績)	旭川市・旭川こうけん人・株式会社ユウキ・末広地域活動センター・(株)すけっと・地域包括支援センター他
6) 事前評価時の短期アウトカム	旭川市において支援対象者が活用される基盤ができる。

②アウトカム達成度についての評価

当初、事業期間 3 年間で就職に結びつくのは困難ではとの予想を超えて、支援対象者の中から、就職に結びついた人が複数出た。支援対象者が活動回数の増加に伴い、動きが俊敏になり、体力もつき、長時間の作業もこなせるようになってきた。仕事に向けて、生活的自立が整ってきたため作業時間が早朝からでも参加できるようになった。何より、支援対象者が自信をもち、自発的に工夫しながら作業をしており、協力企業、団体や個人から指名される人も出てきている。

アンケートの回答から：・時間までに現場に行き、時間まで働けることが自信につながる。・居場所や仲間、やりがいがあったことが就職のきっかけになりました。

(2) 波及効果(想定外、波及的・副次的効果)

経験の長い支援対象者が、新しく参加してきた支援対象者にさりげなくジョブコーチをし始めている。また、不登校で引きこもりの高校生が、働きたいとのことで、生活困窮者と共に作業に参加するようになり、親からは何もせず自宅に引きこもるより、社会とつながる場ができて良かったとの声がある。

(3) 事業の効率性

草刈り機の複数購入により、広い面積の草刈りも実施でき、処分・整理・管理などの量的向上と、時間の短縮、支援対象者のスキル向上に寄与した。

6. 成功要因・課題

一般的就労が困難と思われている支援対象者が、適切な機会と活躍できる場所があることにより、それぞれが持つ能力を発揮できる可能性があり、空き家対策の多様な作業でその能力を発揮できたと思われる。短時間から段階的に就労体験をし、自分のペースでゆっくと働けることが、徐々に自信につながっていった。

支援対象者からのアンケートや、ヒアリングを通して、①一人ではなくチームで作業する②外部の人との関り③仕事の達成感、④依頼主からの感謝、⑤支給される賃金、など多様なファクターが、満足感と自信につながり、成功の要因と考えられる。

7. その他深掘り検証項目（任意）

8. 結論

(1) 事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価

	多くの改善の余地がある	想定した水準までに少し改善点がある	想定した水準にあるが一部改善点がある	想定した水準にある	想定した水準以上にある
①事業実施プロセス				○	
②事業成果の達成度					○

(2) 事業実施の妥当性

空き家対策活動を生活困窮者が担うという事業設計はおおむね妥当だったと思う。長期無職者にとっては、短時間の作業から徐々に長時間への作業に移行するというプロセスは支援対象者の生活習慣の改善と整合するものである。また、依頼される作業内容が多岐にわたっており、支援対象者は自分の得意な作業を選んで参加でき、不得意な作業は断ることができるので、自主性、自発性が養われる。総事業費が増額しているが、連携団体や関係するNPOなどの紹介で、想定より作業の依頼が多くあった。

9. 提言

空き家の問題は一地域だけの問題ではなく、全国各地の課題であり、今後も増加傾向にあることから、他の地域への波及が可能かと思われる。また生活困窮者は全国的にも課題となっていることから、中間的就労の場として、空き家対策事業の担い手として養成することを提案したい。

10. 知見・教訓

日本の雇用システムのルール下では、一旦会社を離れてしまうと再チャレンジできる場が限られてしまい、再度ルールに乗ることは、現在の日本の状況では難しいと言わざるを得ない。ただ、人生において病気や、会社の倒産、介護、パワハラ、セクハラ、DVなどに遭わないという保証はなく、誰もが遭遇する可能性がある。そうした時に、そこから立ち直り回復して、人生をやり直せることのできる再チャレンジを自己責任の名の下で放置することは社会的な損失となる。国や社会が、1人、1人に合った再チャレンジできる場を用意すべきと考える。なにより少子高齢化で労働人口が減少する中、こうした若年、中高年人材の活用は社会で求められている。長期の引きこもりや若年無業者であっても適切なサポートが受けられることにより、社会の一端を担う人材になりえる可能性が十分にあることを見出すことができた。

11. 資料（別添）

*添付したものにチェックを付けてください。

	事前評価報告後に見直した事業計画やロジックモデル
	事後評価報告時の事業計画やロジックモデル
<input checked="" type="checkbox"/>	事業の様子がわかる写真資料
	広報活動の成果品、報道された記事
<input checked="" type="checkbox"/>	アンケート調査結果や実際に使用した調査票
	とりまとめられた白書
	論文、学会発表資料
	その他（ ）
	その他（ ）